

XVI. 声 楽

(表 1 6)

表 16 の記号

⋮	音節のスラー
⋮ ⋮ ⋮ ⋮	第 1 と第 2 の言語に対する音節のスラー
⋮ ⋮ ⋮ ⋮	第 3 と第 4 の言語に対する音節のスラー
⋮ ⋮	1 つの言語の同一の詞において音節に変化がある時のスラー
⋮ ⋮ ⋮ ⋮	フレーズ初めと終わり
⋮	1 つの音で歌われる 2 つの音節
⋮	1 つの音で歌われる 3 つの音節
⋮ ⋮	ハーフブレス
⋮ ⋮	フルブレス
⋮ ⋮	1 音に入る複数の歌詞を纏める
⋮	歌詞を 1 回繰り返す。つまり ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ のように
⋮ ⋮	歌詞を 2 回繰り返す
⋮ ⋮ ⋮	あるいは、⋮ ⋮ ⋮ 歌詞を 3 回(あるいは何回か)繰り返す

1 6 - 1

声楽のパートは、歌詞のためにスラーをつけて対応する以外は、器楽のパートのように点訳される。

1 6 - 2

歌詞の行は、それに対応する旋律の行と交互になる。

歌詞の部分は、歌詞である事を示す前置符 ⋮ ⋮ か、あるいは点訳ページでの配置によって、見分けられる。

1 6 - 3

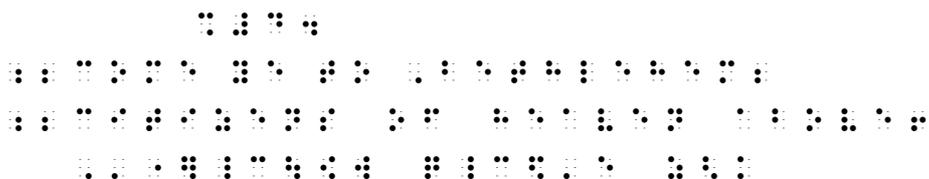
歌の旋律の部分は、音符であることを表す前置符 ⋮ ⋮ によるか、あるいは点訳ページでの配置によって、見分けられる。

もし歌の旋律の中に音程が出てきた時は、音程を読む方向を示す注意書きを記さなくてはならない。

16-10

同じ言語で書かれた一節あるいは二節の歌詞が繰り返された時に音節に違いがある場合には、⠆⠆ のスラーは、歌詞の一方にのみ適用されることを示している。

例 16-10



come ye to Beth - le - hem;
cit - i - zens of heaven a - bove!

16-11

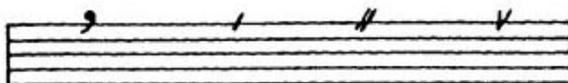
ブレス記号は息をつぐ場所に記され、その次の音には音列記号は必要ない。墨字でのブレス記号はいろいろな形がある。

ある作曲家がハーフブレスとして使っている記号が、他の作曲家や音楽出版者によってはフルブレスとして使われていることもある。

ハーフブレスかフルブレスかはっきりしない時は、それを点字で表すと共に、墨字での記号の形を説明する点訳者注を付けるべきである。

例 16-11 は墨字のみであるが、ハーフブレスでもフルブレスでも使う墨字の一般的な記号を示している。

例 16-11



16-12

墨字譜での繰り返し以外で、点字で用いられる繰り返しは、少ない小節数を繰り返す方法と、点字のセーニョ（中間部の後にアリアが最終的に繰り返されるような、非常に長く明らかな繰り返し）だけである。

16-18

声楽アンサンブルや合唱曲のスコアは、独唱曲で使われる書式を、各声部に対して論理的に拡大したものである。

歌詞が全てのパートで同じである場合は、一度記せばよい。歌詞が異なる場合は、それぞれの声部毎に記す。

16-19

鍵盤楽器の伴奏は、合唱スコアには記さない。

別に点訳し、通常、重要なテーマのアウトラインや、歌の出だしや、アンサンブルの特徴的な部分を記す。

器楽の伴奏は、それ自体のスコアがあり、ピアノがあれば記し、声楽部分のアウトラインも記す。